

慢性疼痛 病因病機と治療

総論

総合内科専門医・
元 入江漢方内科クリニック吉祥寺 院長

入江 祥史



I. はじめに

慢性疼痛には、多くの場合、原因となる疾患がある。しかし、治癒に持ち込むことのできるケースはさほど多くはない。また、原因疾患がはっきりしない慢性疼痛も少なくない。したがって、疼痛の緩解で善しとせざるを得ない場合が非常に多い。

筆者は、長年臨床を行ってきた関係上、「手術を受けないと取れない慢性疼痛」や「現代医薬を使わないと取れない慢性疼痛」を抱える患者を多数診てきた。それらの患者のうち、漢方・中医学の治療を希望して受診する患者は、侵襲が強くて失敗すれば命に関わる可能性もある手術や、できれば現代医薬をその副作用への恐怖から避けたいという人ばかりである。あるいは「どこにも異常がない」と言われ、行き場のない慢性疼痛の患者も、けっこう混じっている。

慢性疼痛の治療方法には、現代でも漢方・中医学というオプションはまだあるのである。そこで本稿では、慢性疼痛を漢方・中医学的にどう捉えるか、それをもとにどう治療するのか、を総論的にまとめることにする。

II. 疼痛の病因病機

慢性疼痛の起こる機序については、現代医学でも盛んに研究されている。多数の機序があり、それぞれに応じた治療法がある。かなり複雑である。それらについては別の書に当たってほしい。それに比べると、漢方・中医学的な捉え方は非常に簡単である。

疼痛の病因病機は次の2行に集約される。

不通則痛，通則不痛。
不榮則痛，榮則不痛。

たったこれだけである。これがすべてである。疼痛の治療法も、これを理解していれば特にここで述べる必要もないはずだ。

先の2行を読んですべてを理解できた人は、以下の文章を読む必要はない。そうでない人はすなわち初学者ということになるから、以下基本的な事項から論じてみよう。